

# 環境マネジメント

ISO14001に基づく環境マネジメントシステムの継続的改善に努め、グループが一体となった環境マネジメントを推進しています。

## 富士通グループの環境マネジメント

富士通グループでは、国際規格ISO14001に基づく環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、グループが一体となった環境改善活動を推進しています。2004年度末に国内連結子会社でISO14001を取得した後、対象を海外の連結子会社に拡大し、2005年度末にグローバル統合認証を取得しました。

国内外に広がるサプライチェーンに即したEMS構築により、グループガバナンスの一層の強化を実現し、第6期環境行動計画の達成状況の把握をはじめ、グループ各社における順法への対応、緊急事態への対応、環境コミュニケーション活動など環境保全活動情報の収集、マネジメントレビューの実施など、より効率的で実効性の高い環境活動の推進が可能となります。

## EMSの構築・運用の状況

富士通グループは、2010年度末現在で、富士通および国内グループ会社の合計91社、海外グループ会社12社が、ISO14001グローバル統合認証を取得しています。非製造系の海外連結子会社25社では、富士通グループ環境方針から導いた共通基準に基づくEMSを構築・運用しており、グループ全体で環境経営の体系を確立しています。

EMSの運用にあたっては、経営層の意思決定に迅速に対応できるよう、ビジネス上の事業組織(ビジネスグループ)をベースに、それぞれの事業特性に応じた環境保全活動を推進する「ライン活動」と、工場やオフィスごとに共通のテーマに取り組む「サイト活動」を組み合わせたマトリクス構造で構成されています。

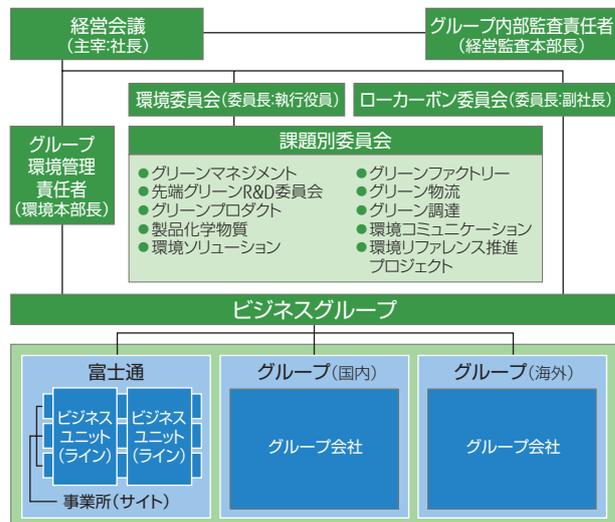
## 環境推進体制

環境経営の最終的な意思決定は、社長主宰の「経営会議」で行われます。その直轄組織として、環境行動計画やEMS体制の改善などに関する協議を統括し経営会議に報告する「環境委員会」と、ビジネスグループの事業責任者をメンバーとして地球温暖化防止対策に向けて事業活動に伴う排出量削減などの全社方針を検討する「ローカーボン委員会」を設けています。

環境委員会では、環境保全活動のテーマごとに、各ビジネスグループ・各本部の枠を超えた関係者で構成される「課題別委員会」が組織されています。2010年度には、低炭素社会の実現に貢献する革新的なグリーンICTの研究開発強化を目的に、新たな課題別委員会として「先端グリーンR&D委員会」を発足し、ICT機器の効率を向上できる先端技術の開発と、ソリューションの環境負荷低減効果の向上に貢献できる先端技術の開発を推進しています。

環境委員会の協議結果などをグループ全体に伝達し、その理解・浸透と積極的な行動を促すための組織としてグリーンマネジメント委員会の配下に「グローバル環境マネジメントWG(ワーキンググループ)」を設け、EMS活動の強化を図っています。グローバル環境マネジメントWGでは、各ビジネスグループの責任者を招集し、各部門やグループ会社に対する依頼事項などを伝達することで、グローバルな情報伝達を一元化しています。

## 環境推進体制



## グローバルでの第6期環境行動計画の推進

2010年度は第6期環境行動計画の開始年として、富士通グループの環境活動をさらに強化・徹底するため、ライン、拠点、工場担当者を通じて行動計画の周知を図ったほか、国内の11箇所、グループ会社の環境統括責任者を対象とした合同説明会を実施しました。海外でも、米州、アジアパシフィック、中国、および欧州4地域のグループ会社29社



欧州での説明会

に対して直接説明する機会を設け、ビジネス活動を通じたお客様・社会の環境負荷低減および自らの環境負荷低減を軸に、すべての目標について現地経営層および環境担当者とのコミュニケーションを図りました。

環境行動計画の推進に加え、グループ各社が環境マネジメントを継続的に改善することで富士通グループ統合環境マネジメントシステムを強化し、グローバルな環境マネジメント強化につなげています。

## 環境マネジメント

### ■ 環境マネジメントシステムの継続的改善

#### スマートEMSの構築

全世界の富士通グループ会社・事業所の環境負荷に関する計画・実績・施策を一元管理する「環境経営統合DB」や、コンプライアンスやリスク管理の状況を一元管理しEMSの運用を支える「環境ISO14001運用支援システム」など、ICTを駆使した独自の環境マネジメントツールを活用し、環境経営の効率化と可視化を図っています。また、「Join Meeting<sup>※</sup>」をEMSの運用におけるリモートコミュニケーションに利用しています。

※ Join Meeting:インターネットを利用したweb会議システム。

#### 環境パフォーマンス向上への取り組み

工場での環境パフォーマンス向上をめざして、目標の達成度合い、法規制の順守状況、運用管理状況などを統合的に判断する仕組みづくりを進めています。

今後も、グローバル統合EMSの継続的改善に取り組むために、第6期行動計画の「ICTの導入によるスマートなEMSの構築」、「環境パフォーマンス向上の仕組み構築」を推進し、環境経営基盤の強化を図っていきます。

### ■ 環境監査の実施

#### 内部監査の実施と結果

富士通グループは、内部監査の客観性や独立性を確保するために、いずれのライン組織にも属さない「経営監査本部」が中心となり、富士通およびグループ会社から監査員を集めて内部監査を実施しています。

2010年度は、2010年7月～2011年1月にかけて、484カ所の国内・海外富士通グループの工場、オフィスなどを対象に内部監査を実施しました。監査にあたっては、2009年度の内部監査の指摘の傾向と外部審査結果を精査し、(1)コンプライアンスの確認、(2)第6期行動計画の取組状況の確認、(3)人材育成状況の確認、の3点に重点を置きました。また、2009年度から取り組んでいる異なる営業本部同士の相互監査を継続実施。他部門に対する監査経験を自部門の活動に反映することで、環境活動の活性化を推進しました。

こうした内部監査の結果、409件の指摘があり、うち重欠点5件、軽欠点35件、観察事項369件でした。

重欠点としては、担当者変更時における引継ぎ不備が指摘されました。それ以外の指摘内容は、件数の約60%を「法の順守」「目的・目標」「運用管理」が占めており、順法については産業廃棄物、目的・目標については目標指標の不備、運用管理については自主的なルールの順守が指摘されました。また、新たに工事・保守関連会社での運用管理不備が表面化しました。これらの指摘事項については、2011年度に是正対応を実施中です。

#### 外部審査の実施と結果

2010年度の外部審査は2010年8月～2011年1月に行われました。国内では、(株)日本環境認証機構(JACO)の審査を受け、富士通グループ全体の活動に対して改善の余地2件、グループ各社に対して軽欠点2件、改善の余地79件が指摘されたほか、第6期行動計画の一部の目標について取り組めていないという指摘がありました。海外では、デットノルスケ ベリタス エーエス(DNV)の審査を受け、富士通グループ全体に対する指摘事項はなく、グループ会社に対して軽欠点18件、観察43件があり、固有法規制の不徹底や内部監査不備などが指摘されました。これらについては2010年度末までに是正を完了しています。指摘された内容はグループ内で共有し、2011年度の内部監査で状況を確認する予定です。

なお、環境活動の質の向上を目的に、内部監査におけるパフォーマンス評価(ISO14031)の導入について、2008年9月から審査機関との協議を開始しています。2010年度中に評価方法を確立し、2011年度からは工場を中心に実施していきます。

#### 環境に関する順法状況

2010年度、富士通グループでは重大な法規制違反や環境に重大な影響を与える事故の発生はありませんでしたが、法規制違反・自主基準値からの逸脱、専任者選定の遅延などが15件ありました。その主な内容は、(1)水質基準値超(工場排水における一時的なBOD<sup>※</sup>超過)、(2)廃棄物処理に伴う確認事項の不徹底、(3)選任者設定の遅延(選任届出の遅延)、などの運用管理手順・書類不備によるものでした。

今後の再発防止に向けて、グループ全体で再教育を強化するとともに、事務系拠点における新規廃棄物処理システムの構築に向けた周知徹底を図ります。

※ BOD:Biochemical oxygen demandの略。生物化学的酸素要求量。

## ■ 社内での教育・啓発活動

### 環境教育体系

富士通グループでは、環境活動を定着させていくためには、社員一人ひとりの環境意識を徹底・向上させ、実行につなげていくことが必要不可欠と考え、1995年から下記の体系に基づき環境教育・啓発を実施しています。

3年に1回の環境eラーニングを実施することで、全社員に環境への基本的な認識を身につけさせるとともに、新入社員、一般社員、幹部社員、経営層に対しては、入社時・昇格時の一般教育のなかに環境教育を盛り込んでいます。さらに、営業・SE、設計・品質保証、製造など、部門別にも内容をカスタマイズした教育を実施しています。環境に関する業務を担当する社員に対しては、専門教育として内部監査員教育や施設管理教育などを実施しています。

### 環境教育体系

新入社員	一般社員	幹部社員	経営層
環境eラーニング(1回/3年)			
環境リーダー育成研修会(年2回)			
ファンクション別教育(営業/SE、設計/製造)(1回/3年)			
階層別教育(年1回)	階層別教育(年1回)	階層別教育(年1回)	階層別教育(随時)
環境月間(講演会、セミナー、研修会など)(年1回)			
イントラホームページによる情報提供(随時更新)			
環境意識調査(年1回)			

※ 人材育成全体に関する取り組みについては、P75参照。

### 環境eラーニングの実施

3年に1回、ISO14001に準拠した環境保全活動の実践と、「富士通グループ環境行動計画」の周知・理解・実践を目的として、富士通グループ全社員を対象とした環境eラーニングを実施しています。

2010年度は、「ISO14001」認証の継続と、2010年度にスタートした「第6期富士通グループ環境行動計画」の周知を主要テーマとした環境eラーニングを実施しました。



環境eラーニングの画面

### 環境リーダー育成研修会

富士通グループでは、各拠点の環境リーダーが企画力やノウハウを養うための研修会を実施しています。2010年度は、生物多様性の保全をテーマに、自分たちが取り組むべき生物多様性保全活動とは何かを考えました。

2010年4月には、支社・グループ各社の「生物多様性保全・啓発活動」を推進する担当者に向けて、「富士通グループ・中土佐 黒潮の森」がある高知県中土佐町で、担当者研修会を1泊2日で開催しました。研修会では、川の水質調査や演習などを通して生物多様性への理解を深めました。

また、2010年9月には、北海道富良野市で担当者研修会を開催しました。研修会では、北海道の大自然のなかで森の再生活動を行い、五感を通じて環境について深く考えることを目的に、「富良野自然塾」環境教育プログラムを実施。参加者は環境教育施設で学習したほか植樹作業を体験しました。



川の水質調査の様子



「富良野自然塾」環境教育プログラム

## ■ 社内表彰制度

### 環境貢献賞・環境コンテスト

富士通グループ各社における社員の環境意識の向上を図っていくために、グループ全社員を対象として、「環境貢献賞」「環境コンテスト(フォト部門/エコライフ部門)」を1995年から、毎年継続して開催しています。2002年度からは、環境貢献賞の最上位にあたる「環境貢献大賞」を、毎年6月に開催される創立記念式典で社長から表彰しています。

### 富士通のソリューションビジネスグループ独自の表彰制度

富士通のソリューションビジネスグループでは、優れた環境ソリューションをより多くのお客様に活用していただくために、2008年度から独自の表彰制度を設けています。このうち、顕著な活動を行った組織に与えられる「環境特別表彰」は、毎年4月開催される「ソリューション拡販会議」で表彰しています。